

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)		-	-	-
		スーパー（店長）	来客数の動き	・いろいろなディスカウント業態の店が進出してきているが、あまりの進出のスピードの速さに消費者が飽きてきたのか、奪われていた客が戻ってきているようだ。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・価格を抑えている効果もあって、1人当たりの買上点数が増加基調にあり、販売量も増えている。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・競合店の出店により来店客数の減少が続いているが、客単価の伸びがそれを補っていることから、前年比105%を計上している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・11～12月に新型車の発売が相次ぎ、受注台数は前年を上回っている。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・季節要因もあるかもしれないが、高額サービスやオプションサービスに加入する人が増えている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・年末で来客数が増えている。
		商店街（事務局長）	販売量の動き	・通行量は前年を上回り、にぎわい感はあるものの、業種業態により好不調が大きく分かれている。商品やサービスに特徴があり、体験性や特別感を味わえるものに人気が集まる一方、価格訴求型や価格競争の波にもまれやすい商品や業種は消耗戦が続いており、先行きは暗い。この差は今後も広がると思われる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・百貨店や全国チェーン店などに客が集中し、隣接する商店街の中の個人商店には客がいない。クリスマスの連休でも来街者は驚くほど少なく、年末もにぎわい感がない。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・本当に地方の小売店は冷え切っている。量販店やネット販売には敵わないし、期待できる要因もない。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・絵本などのクリスマスプレゼント需要が減っている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・前月に比べて下げ幅は改善傾向も、売上の落ち込みが続いている。全国的にも百貨店は不調で、景気の改善は感じられない。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・クリスマスケーキやおせちなどの予約状況が芳しくない。全体的に低調な数字に終わった。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・クリスマスが終わってみると、改めて購買力の無さを感じた。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・天候や気温に大きく左右されるが、来客数や客単価に変化はない。
		コンビニ（商品担当）	販売量の動き	・曜日の並びの影響もあるが、例年と比べてクリスマス商材の動きが悪かった。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・例年は官公庁のボーナス支給日前後から販売量が伸びていくのだが、今年は前年を下回り気味であった。12月上旬が比較的堅調であったこと、月後半の寒さでそこそこ伸びたことから、月間通してはおおむね横ばいとなった。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来店客が非常に少なく、客単価も上がらない。長年洋服販売をやっているが、こんなに売れない年末は初めてで、安い物しか売れない。四国の景気はかなり良くない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・相変わらず必要な物しか購入しない。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・とにかく財布のひもは固く、節約志向が強い。臨時収入があっても消費へ回すことはないと思受けられる。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・例年12月は、10～11月と比べて客数は非常に少ないのだが、今年は10月と変わらない程度入っている。宴会が増えていることもあるが、年末まで待たず冬休み感覚で旅行する人が増えているのではないかと。しかし、景気が良くなったわけではない。	
	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・変化はない。	
	旅行代理店（営業部長）	販売量の動き	・インバウンドは依然好調であるが、年末年始の国内・海外旅行は苦戦している。	

	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前よりは少し良くなっている。毎年、御用納め後の28～30日の3日間は忘年会、同窓会等で良い。しかし、一年を通してみると、あまり良くなかった。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・例年であれば年末に販売量が増えるが、昨年ほどの販売量となっていない。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・12月に入って思うほど販売が伸びない。
	通信会社（支店長）	来客数の動き	・年末商戦期なのに、大きな変化が見られない。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来場者数の伸びる時期であるのに、2～3か月前と変わらない。
	商店街（代表者）	それ以外	・地方の小売業界等は来年もさらに厳しくなる。大手量販店は出店を続け、大手同士の消耗戦に入る。ネット販売はウエイトを上げてくる。既存商店街が生き残る方策はほとんど残されていない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・なかなか寒くならなかった影響もあるが、来街客は少なく、冬物商戦の売上が非常に悪い。クリスマス商戦も短期間にぎわっただけで、年末も大変厳しい状態が続いている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・昨年より忘年会が減少している感があり、二次会需要も減っている。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・年末を迎えても、客は必要な物しか買わない。
	家電量販店（副店長）	競争相手の様子	・競合店の出店により、客が回遊している。
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・8月以降回復傾向にあったが、1月の初売りを期待してか、12月の受注は伸びていない。軽自動車の届出ペースは、前年を大きく上回る勢いはない。
	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車を発表したにもかかわらず、前年並みの受注にとどまっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・12月後半は遍路客もおらず、街中は人の動きがほとんどない。遍路の仕事が多かった秋と比べると、売上は落ちている。
	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・販売数が前年比20%減少している。
	競艇場（職員）	販売量の動き	・12月の売上高は3か月前比22%増、前年比横ばいとなった。男女最大のレースがある12月は売上増を期待していたが、男子のグランプリは前年比7%増となったものの、女子は減少した。
	x	*	*
		-	-
企業動向関連	木材木製品製造業	取引先の様子	・元々2017年4月の消費税増税に向けて動いていた業界なので、年度末に向けた動きは良くなってきている。
(四国)	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末需要もあり、12月は過去最高の売上を達成した。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末までに太陽光設備の話がたくさん出てきた。高い確率で受注できており、少し景気が良くなってきている感じがする。
	公認会計士	取引先の様子	・顧客の月決算・試算表等をみると売上、利益ともに前年より改善している企業が増えてきている。景気は若干上向いている。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・海外の取引は拡大しているが、国内の地方小売業は厳しい状況が続いている。全体的に地方経済がデフレ傾向にあり、消費が冷え込んでいるようだ。
	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注、販売量共に低位で推移している。
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・販売量は数%の減少が見られるも、例年の変動範囲内に収まっている。利益は、概ね前年並みで推移している。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・この時期は年度末納期の手持ち量が多い繁忙期であるのに、仕事量は増えておらず、例年と比べてわずかに減少傾向にある。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年間を通して受注量が芳しくなかった。
	建設業（総務）	競争相手の様子	・同業者の会合での話題の総合的な判断として、大きな変化はない。
	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・大きな変化は感じられないが、先行きは少々不安である。

	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・年末には路線貨物をメインに受注量が伸長した。季節要因を除けば、物量は増加していない。
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・業種によってばらつきはあるが、総じて企業の資金需要動向に大きな変化は感じられない。
	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・周年企業の販促広告は増えたものの、多くの既存得意先に変化はなかった。
	農林水産業（職員）	取引先の様子	・高騰していた野菜の出荷量は少し回復したものの荷動きは悪く、年末らしからぬ荷動きと価格推移をした。また、マイナス金利の影響は農協の信用事業、共済事業の運用利益を大きく下げしており、中小の金融機関つぶしの様相を呈してきた。
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内需要は堅調さを維持しているが、海外需要は予断を許さない状況が継続している。
	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・例年、歳末繁忙期に取扱貨物が増加し、臨時便も出していた。しかし、今年は取扱物量が伸び悩み、前年を下回っている。景気の低迷を強く感じる。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・テレビスポットCMの出稿が東京など主要地区にとどまり、地方まで伸びてこない。
	x	-	-
雇用関連			
(四国)	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・昨年を上回る求人数があり、企業の採用意欲を感じる。
	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・求人数が増え、派遣の依頼も増加傾向にあるが、求職者が減っており、ミスマッチも目立つ。
	職業安定所（職員）	それ以外	・11月の月間有効求人倍率は1.45倍で、5月以降連続して上昇している。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数が順調であり、有力企業からの求人も増えてきている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・業界の構造的なものもあるが、売上が増加するための効率が年々悪くなってきている。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・有効求人倍率は過去最高水準が続いている。非正規の割合は4割程度で、人手不足にあるが、継続するか否か企業は判断しかねているようだ。
	民間職業紹介機関（所長）	雇用形態の様子	・製造業では新卒者、特に高校生の採用が出来なかった企業が多かったようだ。中途採用を含め、今後も粘り強く採用活動を行うそうだ。
	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・製造業を中心に慢性的な人手不足で、受注状況も悪化している。景気はやや下向きになっている。
	x	-	-